新宮撰歌合 建仁元年三月廿日 作者隱名歟

題

霞隔遠樹　羇中見花　雨後杜鵑

松下晚涼　山家秋月　湖上曉霧

嵐吹寒草　雪似白雲　逢不遇戀

寄神祇祝　作者 左方

左大臣 良經　内大臣 通親

權中納言公継　釋阿

越前　散位隆信

左近衛中將通具　　散位有家
散位保季　　上總介家隆
寂蓮　　散位鴨長明
散位賀茂季保

右方

御制衣　　前權僧正慈圓
權大納言忠良　　權中納言兼宗
參議五經　　大宰大貳範光
宮内卿　　讃岐
丹後

左近衛權中將定家

左近衛權中將雅經　　左兵衛佐具親
左馬助家長

讀師

左方　左近衛中將通具
右方　參議五經

講師

左方　上總介家隆
右方　左近衛權中將雅經

判者　　釈阿

一番　　霞隔遠樹

内大臣

左 持

もえ出る梢も麗はしき葉にて雪のゆもりと共にあるかな

女房

右

浦の松はしるしまさるとも春にはまたてる色なきかな

左方は右方より出る梅を第一とし云へり

野色はもとより春の心にたうひしやの国なる左方陳ず云誠に春の

色とはこれにはしかしかは晴れもしかはしかは詩歌

はの学にいひなるべき也右はかを左方

持ず有べし

別者ず云左歌右歌ず有もるべき歌よりあらば

左右歌ず心をもてはかるべしかるべし但うは一番の左

はは歌なれば持ずとなん

二番

右 持

左大臣

なにはあしの枯れ枯れの波間の濱ひさしくしくあるのみにて

右

参議左経

たのもしきすは古間の源はは松原にもぬるこのすむもるかな

左方は右ず立上はは詠ずしとを見て下はは言葉

いとる同心の病ういん古歌を左ず云あるべき歌

六田はよとふいつこともあるへるまろ六田乃淀とも
吉野川ともあるう万葉集にもこれ柳原
六田のよるに袖敷の作者のやおかつら新
右陳云六田は淀の橋古今よ讀ものして伝
よりも猶證の奇とやいとしとや
判者ヤ云左歌宜しきもあるへは剪ら
ひ有右哥六田淀おかつるゝみ猶よ
三番
左　寂蓮
未ゝ幾き松のをりもうつるくすまろ波よりうき上梅ちら

右勝　左近衛權の中定家
みちのくのあだ人ぬ袖乃松の葉もみちくすくるこのすゑもるか
正番　右云未ゝ幾きことをけるよりすへく必よかるものや
右哥ど左ゝ云松の景ろ乃のよくそ
きこゆれ
判者ヤ云みちくるなといへる詞ところき事なれと
宜しきゆゑ人えをとする忍ゝ幾きと見るよいまきるへくや
四番
左持　四斬中見花　寂蓮
旅のうらいくよしをよふ人なれももるあ花のゆゝけ

右　霞隔遠樹　雅経

みよの春の山ぢはなほのかすみこめる梢とくもるまもなく

左歌と右とともに新頃宜敷乃
由ヲ右ノ方ハ左ノ方ヲ
判者ヲ云方のもとゝ数まさりたる花やと
思るゝすくなきやうもあきらかきこひ孫
ハれぬさまなれ持らすへし

五番

左勝　羇中見花　左大臣

ちるはなゝやとゝ成ぬ春ゝ
ちりぬるのやうにもなれはくちるのやうに

右　霞隔遠樹　雅経

ちるかき枝のくもとたゝ立ちくもるハ春のあけぼのもてはなり
左歌と強ヲ自ヲ右歌左ヲ勝るのあの
ものよりくもの枝はなるとをけるすなくやあり
者以左為勝

六番

左持　羇中見花　有家

ちるこゝろの春こゝろ風のとゝまるも花のもとはゝ山ぢのかの
右　宮内卿

はるのさとをたのおもふあなるあ我花ちるとの乃うつの山ぢえ

左方右ノ云咲きんといへるをもとゝしてはゝ
しをしるべやうの右ノ云なるめうなのといへ
るをもむれさかりとゝ云もはゝ讀なるべして
侍れるうめと云もはゝ讀なるべしやうゆうん
制者ノ云字法の山越伊勢物語ともつくりえ
てきるのゝくなるべしてはゝ讀なるべ
きすや侍らん右方人當時撰ばれく咲きる色
陳ノ云ともるうめ歌にんゆゑすとゝく持とも

七番

左　雨後時鳥　通具

むらさめのそゝ雲ゆゑ時鳥ふけちきるさよ共一聲の
右勝　羈中見花　雅経
常ねあるかさなる山を分すてゝ花もいく重はるのゝ雲
左ノ云右方ノ云見ゆるを奏るといふもちきれ所
より右ノ云左雑なるきこの頭由をノ申者右ノ
勝とゝ

八番

左持　雨後郭公　内大臣
ゆゝしき夜なくるすれすとゝもてちつくとの寺新の立花
右　羈中見花　基圓

よもぎ[illegible]行野[illegible]

左方の右ゝ云ふ事毎のたれまとゐるハ[illegible]
[illegible]や雨ハ[illegible]のうちまいり左ゝ云ふ[illegible]
云事ハ毎日の事常のる也右歌左ゝ云旅
の心おもやゝ又[illegible]ハ[illegible]
侍らん歌者左方晴間ハ[illegible]
[illegible]右歌[illegible]
[illegible]
優ハ[illegible]
[illegible]日数[illegible]

たゞ旅ハ[illegible]歌ハ霸中の歌ハ不叶やと
[illegible]右方ハ云晴間といへる外ハ[illegible]毎の後
[illegible]
の事ハ[illegible]
[illegible]

九番

左 持　雨後杜宇　左大臣

五月毎[illegible]

右　霸中見花　女房

[illegible]

左　右ともにゆうべ雨しめり侍りしかば
作り花の月をまつ人なきにあはすてうく
侍りて持とぞ

十番　雨後時雨　有家

左
ほとゝぎす待とひかうく村雨はあらるれかあくる雲ふなくなり

右勝　讃岐

さゝなれの雲まはれ月のもれいりをたゝくまちけるかとゝまつ

右ゆうべ雨よりのち也　左不及沙汰可勝判者同沙右為勝

十一番　松下晩涼

左持　散位隆信

高くもれ夕涼し住吉の松を秋風ふるあらの海辺

右　大宰大貳為光

秋やとゝ見るせゝ涼よ松をもれたもひもすまくれなる

左右ゆ杖文の先　判者左の涼ゆゝと宜風
るるやの持とぞ

十二番

左勝　山家秋月　通具

さゝの庵ゝ柴の戸をひとりたく猶もたゝ秋のおれ月

右　松下晩涼　公経

友さそふ小行ゆきを乃久原ゝ松ゆく風ゝひくらゝ[illegible]

判者ゝ云友さそふてとゝるまさせるゆくなきゆゑ左ゝ優よきこゝゆ可為勝

十三番

左　勝　山家秋月　左大臣

時もあれ有人ゝおもせらく須山乃月ゝ秋風ゝふく

右　松下晚涼　慈園

木末ゝの久せおけるゝ松ゝ風ゝ秋まち立なるまりなるゝ

判者ゝ云右ゝ雅経左猶宜ゝまりて為勝

十四番

左　湖上暁霧　公継

あはてゝ見浪ゝ[illegible]ゝ明ゝ[illegible]

右　勝　松下晚涼　丹後

涼ゝ[illegible]ゝ松ゝ木ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

左ゝ云右ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

雅経ゝ指雅右歌宜仍為勝

十五番

左　持　湖上暁霧　内大臣

あきはゝるゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

右　松下晚涼　兼宗

名をとれ秋のきりぎを先あてく袂よかよ松乃とゝ房
判者云とちの深あはぬいろよりきこゆもとも右
とゝ方のなまるゝれい為持

十六番

左　湖上暁雁

ゝかれ鳥やいつく残きりぬ乃こ引く浪より出る有明の月

右勝　山家秋月　基圓

このもきよ地月ゝりおつる袖ぬ乃雲ゝ秋のゝ軒ゝ山のゝ

右ゝ云ゝ左ゝ景ゝ秋月暁の陽ゝ顕の心め

何方ゝ予ゝ有ゝ判者云右ゝ心新ゝ冥ゝ無仍為勝

十七番

左　嵐吹寒草　内大臣

秋ゝ草ゝあれゝ嵐ゝ吹ゝ草ゝのゝ寒ゝ乃ゝ野ゝ辺ゝ乃ゝ露ゝ

右勝　山家秋月　定家

都ゝ人ゝ住ゝ乃ゝ草ゝ乃ゝ心ゝ住ゝ乃ゝ月ゝ乃ゝ宿ゝ

判者云右為勝

十八番

左　嵐吹寒草　釋阿

とゝ赤ゝ乃ゝ草ゝ乃ゝ嵐ゝ吹ゝ寒ゝ乃ゝ秋ゝ乃ゝ夕ゝ

右勝　山家秋月　女房

宋の戸やさしもさびしき深山べは月をぬく風ばかりぞ聞

右ア云ことさら家ハ名ぬしなれハ結ぶの草の
にあらぬや左ア云さらぬ名ハ寒草なれハ
寒草になりぬるよりあさましく新者云右歌あな面白
右勝と定ア

十九番

左持　嵐吹寒草　保季

山おろしに枯野のあくすゝきなびき霜ゝ恨やむすひ果らん

右　山家秋月　雅経

よろしにうゝ雲ゝ月あらしに常めく樹ゝ山のゝ月

右ア云くすゝきのなびきなびけるもそぬ打ものゝ恨
うゝ多ゝ新者云いつれも無事為持

廿番

左　嵐吹寒草　越前

更ゝ深ゝ秋ゝ霜ゝ敷ゝ置ゝ枯ゝ草ゝ萩の下葉を

右勝　湖上暁夢

うすきりの行ゝ方ゝ遠ゝ山ゝ鳥ゝ

右ア云萩の下葉ハ月ゝ夢ゝ山ゝ鳥ゝ
ふゝ左ア云あゝ枯ゝれゝ草ゝ秋ゝ霜ゝ敷ゝ置ゝ
ゝ月ゝ夢ゝ山ゝ鳥ゝ新者云うゝ雲ゝ
ゝ月ゝ夢ゝ山ゝ鳥ゝ新者為勝

廿一番

左　嵐吹寒草　左大臣

木枯の葉影ふく後にしるし花の色のみ枯のこるあはれ

右勝　湖上暁霧　女房

ちかの浦やまとの沖に方さめて秋もなかばの夜の月

左右ともに制者右の歌心肝にそむく左又

優なりといへども猶以右為勝とす也

廿二番

左勝　雪似白雲　内大臣

ちるかとも月とも見やなみやこんたちひろがりて雪は白雲

右　湖上暁霧　右馬頭家長

ちかの浦やうらうらひかりきりはれてくもるとも見ぬ月

右の歌ふく云方の法制表に似たり仍左為勝

とす由制者

廿三番

左持　雪似白雲　寂蓮

あらし吹ちるかとみるまで白雪はけなきに松の雪あれ

右　嵐吹寒草　定家

あさちふ宮のとこの草末乃色はあらそきとしるふく嵐哉

左右ともに優なるとて制者あらそ優也の為持

廿四番

左　雪似白雲　釋阿

故郷をさすかぜもやよそにまよふ雁のこゑ

右勝　嵐吹寒草　範光

草ばかりやはまをこえぬ野べのあきかぜ

左方宣曲人くこれをとりてもの判者次右為勝

廿五番

左　雪似白雲　香の保

よろづよにいはもとをしろ白雲はらはぬをとこそしるべ

右勝　嵐吹寒草　女房

草のもとこそあるべけれ吹こしの嵐

不及左方心為勝し由判者申

廿六番

左勝　寧神祇祝　内大臣

万代はちとせののもやうのこゑ

右　雪似白雲　権大納言忠良

あまのあしはらはしめ白雲

判者左為勝

廿八番

左　過不逢恋　越前

くもりなくおつる涙をせきとめて宮なるかたをや袖のこさん

右勝　雲似白雲　女房

雲やまがふらん霞ぞ山のはにせばめられなく雲の三稱の音

左　雲不及沈吉歌　可為勝之由判者申

廿九番

左勝　逢不遇戀　釋阿

泊瀬河又うんとうあはせこのおもてつゝ者ともの板

右　寄神祇祝　宮内卿

ゆふ〳〵あつまるよそひの神をせやもすそ川のきゝのゝ浪

判者以右勝為歌　左者ともに不及

この為勝之由申侍也

三十番

左　遇不逢戀　家隆

いまさんの契ときゝあはのまゝのたあるを明の月

右勝　寄神祇祝　女房

神ゆとも八重ゆさうねくもゝとせ川の赤そ名ゝ

右方祝よのうくこの勝之由判者申

三十一番

左　遇不逢戀　長明

なうれくとあふおうひうんらんの人のうくれとぬ殿の書分りを

右勝　寄神祇祝　基国

あらたなる代とてうかるゝ代とてうかるゝ七ちやうの三のひろうは

以右勝為自判者左方もまけとす

三十二番　遇不逢恋

左持　寂蓮

うらみてもひまもとゝはぬ方なれもおもひなるぬるなれの名

右　丹後

ものゝとはぬいろよ取ぬるんたのめしれい秋風そゝく

左右互に直由とて判者両首ともに優也勝負定難し

三十三番

左勝　内大臣

あひうらゝ分うかるゝのうつくしきうのかねおもを美よ春の日や

右　定家

人心なとは雲井の月ハうりとすれぬ袖乃なみとうつる

判者云左右負劣れと猶左ハまさる歌へし

三十四番

左勝　人

左大臣

ちりてうつあ春あまことうくてゝ猶ものうの月とまちしう

右　具親

中くよ人ぬ春ハるゝ世ものうの風へしとハ契やハ

右方申云古今宜しといへとも歌におゐてハ左弁
たて勝負判者同之

三十五番

左　　権中納言公継

たえぬるも心にもひつくし涙とゝりいつくとくまも

右勝　　公経

あはれなるみのやまのゆかりともみしよそなれはたのまん

右方申云一の勝之由右左とらひ申之判者同之

三十六番

左勝　　通具

ちきりおきしあかぬわかれの露をおくあかつきまつのなかきなれとハ

右　　宮内卿

うきみをもめくる袖のなみたさへのこして涙のあまそゝく

左申云あしふくあまの袖のまくらぬれつゝ也

判者云以左可為勝

巻百九十一

羣書類從卷第百九十一

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan